

(様式3)			令和5年度自己評価表			鳥取県立皆生養護学校		
中長期目標 (学校ビジョン)		自己の生き方を探求していく人の育成 ～未来を生き抜く力を育むことを通して～		今年度の 重点目標		1. 幼児・児童・生徒一人一人に応じた主体的な学びを実現する授業や教育活動の推進 2. 安心・安全、信頼される学校体制の構築 3. 分担と協働、意識改革による学校運営		

年 度 当 初					評 価 結 果 (10) 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
一人一人に応じた主体的な学びを実現する授業や教育活動	幼小学部	未来に関心をもち、学ぶ・人と関わるこ とが大好きな 子を育てるた めの授業づく り	○幼児児童の「学ぶ・人と関わるこ とが大好き」な姿をイメージし、指 導案を書いて授業を行うことがで きた。 ○保護者アンケートでは「進路指 導」の観点の評価が低かった。まず は教職員が知識を得て、今している 授業が未来のどのような力につな がるのか説明できる力が必要である。	○教職員が、幼児児 童の未来について考 えながら授業づくり を行っている。	○教職員が幼児児童の卒業後までについて考 えることができるよう、主に進路指導課等と協働 しながら学部研修を5回程度行う。 ○週に1回、学習グループで授業の検討をする際 に、未来の姿等を話題にする。	B	○残り2回の学部研修で、今している授業を キャリア教育系统表（作成途中）で振り返り、 幼児児童の未来について考える時間を設ける。 ○キャリアパスポートや参観日等の機会を活用 し、保護者と未来について話をしたり授業づく りに活かしたりする。	
	中学部	生徒が達成感 を感じ、自ら 学びたいと意 欲を持つこと ができる授業 づくり	○生徒一人一人の目標を意識して、 単元構想や授業づくりを行うための 話し合いの時間を確保してきた。目 標を意識し明確にすることと、各担 当者が作成した年計や各教科・自立 活動それぞれの個別の指導計画等を 照らし合わせ、生徒の実態に応じた 計画に基づいて授業づくりができる ようにしていきたい。	○生徒が「できた・ わかった」と感じ、 もっと「やりたい」 と意欲を持つこと ができる授業づくり を行っている。	○個別の指導計画ファイルを活用した学習グ ループの会を毎週設定し、教員間で目標を明確 にする。 ○グループで学習計画の検証や評価を行う。 ○生徒に対し、学習アンケートを年2回（前 期・後期）実施する	B	○計画的に学習グループの会ができるように学 部会の後半の時間を学習グループの会とする。 月3回は設定できるようにし、継続して取り組 めるようにする。 ○各担当が教科等の前期評価を行った。評価を 活かして後期の計画を見直していきたい。 ○アンケート結果を学習グループごとに分析 し、後期の学習計画に活かす。	
	高等部	生徒の好きな ことや得意な ことを活かし て社会とつな がり、貢献す る学びの創造	○単一障がい学級、重複障がい学級 Ⅰ型、Ⅱ型については、昨年度、6 6%の生徒が、授業を通して 「『やってみたい』と思えることが あった」と答えた。やってみたいこ とに挑戦するという意識はもってい るが、社会をよりよくするという視 点はまだない。 ○重複障がい学級Ⅲ型の生徒につい ては、一人一人の好きなことや得意 なことを活かし、校内で役割のある 活動を設けている。社会参加や社会 貢献の形について、今後模索してい きたい。	○次年度に向け、生 徒が社会とつなが ったり、貢献したり する活動を具体的に イメージできている。	○生徒との対話を重視し、生徒が主体的に社会 に貢献しようする活動を設定する。 ○生徒の良さを活かして、校外に発信したり、 つながったりする学習を積極的に設ける。 ○ICTやeスポーツ、視線入力に関する学部 研修を行う。 ○月に一回、個別授業担当で情報共有する時 間を設け、障がいの重い生徒一人一人の得意な ことや好きなことを活かした社会参加の形を模 索する。 ○障がいの重い生徒が利用する地域資源を開拓 する。	B	○総合的な探究の時間で「防災」をテーマに設 定し、「社会がよりよくなるために」という視 点の学習を設定している。 ○ボッチャを地域に発信する学習や、地域の高 齢者施設との交流を計画している。 ○重複障がい学級Ⅲ型では、月一回生徒の個別 授業担当で学習のねらいや内容の情報共有を 行った。 ○校外学習の行き先1件、修学旅行の宿泊先1 件を、特別食対応可能な飲食店等3件を開拓 し、生徒の実態を知ってもらい、利用可能な場 所を広げた。	
	教務課	教科の個別の 指導計画の評 価の具体化	○学習指導要領に基づき教科の個別 の指導計画や年間指導計画が作成さ れ、3観点で評価することもおおよ そ周知されているが、目標について より具体化し、よりよい評価につな げていく必要がある。	○教科の個別の指導 計画の評価が、3観 点に基づいて具体的 な場面を想定した表 記になっている。	○教科の個別の指導計画や年間指導計画にそれ ぞれ何を記入するのか、共通理解を図る機会を 設定する。 ○形式的な作成にならないよう、学習グループ ごとに作成したものを持ち寄る。より具体的な 目標を立てられるように話し合う時間を設け、 共有したり修正したりする。 ○前期の成績交換に向けて、3観点での評価方 法について説明する。それを受けて、担当教科 の評価が適切に行われているか学習グループで 検討したり、後期の計画を見直したりする時間 を設定する。同様に後期の成績交換やR6の計画 を作成する前にも必要に応じて説明や検討の時 間を設定する。	B	○5月に、学部ごとに教科の個別の指導計画や 年間指導計画にそれぞれ何を記入するのか、具 体例を示しながら共通理解を図る時間を設定し た。 ○学習グループごとに作成したものを持ち寄 り、より具体的な目標を立てられるように話し 合う時間を設け、共有したり修正したりした。 ○前期の成績交換に向けて、3観点での評価方 法について説明した。また、成績交換後に担当 教科の評価が適切に行われているか学習グルー プで検討し、修正する時間を確保した。このよ うな時間を設定したことで、3観点に基づいた 表記になるよう修正する場面も見られた。 ○前期、教務課の研修を2回、教務課主催の目 標設定や評価に関する研修3回、道徳に関する 研修を1回実施した。また、学習グループで検 討したり修正したりする時間を2回持った。	

の推進	授業づくり推進部	○教職員自らが「楽しい」「もっとやりたい」を目指す主体的な授業づくり	○日々の忙しさに追われ、計画的に授業づくりをしたり、打ち合わせをしたりすることに難しさを感じている教師が多数いる。 ○お互いに授業を見合ったりアドバイスを受けたりしながら、授業力の向上を図れるような仕組みづくりが必要である。	○授業公開に向けて、計画的に授業づくりに取り組んでいる。 ○グループ討議や研修に積極的に参加し、授業力向上を目指している。	○授業づくりアンケートを年3回行い、自らを振り返る機会を設定する。 ○年1回以上の授業公開、授業見学（事後ミーティングへの参加や動画視聴を含む）の機会を設定する。 ○グループ討議や授業ミーティングを設定し、授業について語り合ったりアドバイスを受けたりする機会を意図的に設定する。 ○計画的に授業参観できるように、公開の時期を早めに決定したり指導案の締切りを1週間前に設定したりする。 ○外部講師やエキスパート教員を活用し、専門性の向上を図る機会を設定する。	○4月に授業づくりアンケートを実施し、個々の課題や「つきたい力」を明らかにすることができた。 ○5月のグループ討議でグループごとにテーマを決定することで、共通の課題意識を持って話し合う姿が増えた。 ○授業ミーティングの司会者をグループ内で相談・決定することで、昨年度と比較し、授業づくり推進部主体の仕組みからグループ主体的の取り組みになりつつある。 ○前期に公開された授業数が少なかった。日々の忙しさに追われ、延期されたり公開時期や内容が未定であったりする場合もある。公開された授業数は、予定の41%に留まっている。	C	○授業づくり推進日を使って、授業公開に向けてグループ内で日程や役割を明確にする。それによって、予定された授業が12月末には100%公開されることを目指す。 ○外部講師や校内の人材を活用しながら、授業作りに関する困り感を改善したり専門性の向上を図ったりする。
	進路指導課	キャリア教育の推進と進路指導の充実	○キャリア教育の基本的な考え方については、研修会をとおして定着してきた。引き続き、幼児児童生徒及び保護者のニーズに寄り添いながらキャリア教育に視点をあてた学習指導や情報提供をしていく必要がある。 ○昨年度、教職員や保護者の研修への参加率は低かった。今後、研修への参加の促しと幼児児童生徒の将来の生活のイメージづくりのために、保護者と日々の情報共有が必要となる。	○キャリア教育や進路指導について積極的に情報を得ようとするができる。	○研修会を年に3回以上は計画し、幼児児童生徒の育てたい力や必要な力に共有したり、キャリア教育や進路指導について考えを深めたりする。 ○福祉セミナー、施設・事業所見学等の参加を促したり、状況に応じてリモート通信やオンデマンド配信をしたりすることで、情報を得る機会を増やす。 ○進路指導通信に、卒業生の様子、卒業生保護者からの声、事業所の活動等、今までに挙げていない情報を掲載し、内容を工夫しながら発行する。	○学校全体での研修を2回、学部研修を4回、キャリア教育についての研修を実施した。小学部では、「キャリア教育系统表」の作成を通して、幼児児童の育てたい力や必要な力を共有したり、キャリア教育推進計画との関連性について共通理解を図った。 ○福祉セミナーについては、全職員に向け、資料配布とオンデマンド配信の案内を行った。施設・事業所見学については、リモート通信をすることで、昨年度より43%参加率が向上した。（今年度教職員の参加48名、昨年度19名） ○進路指導通信は、卒業生の様子、進路指導参観日の座談会から得た卒業生保護者からの意見や情報、事業所の活動等、今まで取り上げていない内容の掲載した。	B	○教職員にキャリア教育や進路指導について疑問に思うことや知りたいこと等アンケートを取ることで、必要な情報を発信していく。 ○進路指導通信では、卒業生の様子、事業所の活動等未発信の情報を挙げ、記事の内容をさらに充実させていく。 ○キャリアパスポートの活用や参観日等の機会をとおして、キャリア教育や進路指導について情報を得たり、考えたりする機会を作る。
安心・安全、信頼される学校体制の構築	保健指導部	安心安全のための取り組みの整理と活用	○保健室での業務、各種緊急対応マニュアル等、細やかな対応のための数多くのシステム、マニュアルを昨年度見直したが、整理が必要な部分や、検証できていない部分がある。 ○昨年度、災害時対応避難訓練が実施できなかったため、対応への理解が不十分なところがある。	○システム、マニュアル等の検証、見直しにより、教職員が活用しやすくなったと感じている。 ○災害時避難等について、教職員や保護者が対応をイメージできている。	○システム、マニュアルの運用の見直しや整理をし、実際の運用（対応訓練等）を通して確認を行う。 ○教職員がシステムやマニュアルにスムーズに対応できるように、インデックス化、視認性の向上等の改善を行う。 ○保護者が参加する避難訓練等を開催し、有事の際に対応できるイメージを互いに持てるようにする。 ○年末に教職員、保護者にアンケートを実施し、成果を確認する。	○緊急時の対応について訓練（火災対応避難、不審者対応避難）を通して見直しをおなった。対応書類等を活用しやすくした。 ○処理の効率化のために、保健室の校外学習の簿冊を、幼児児童生徒やグループで検索しやすいようにまとめた。 ○給食の食形態変更につて、書類や手順の見直しを図ると共に、手続きが可視化できるようにフローチャート化や手順書等を作成している。	B	○システム、マニュアルの運用、見直しを今後も進めていく。 ○避難対応等、保護者と情報共有できていないところ（被災時の対応、引き渡し訓練等）をまとめ、伝えていく。
	教育相談課	切れ目のない支援体制を構築するための個別の教育支援計画の作成	○個別の教育支援計画について、記載の仕方や合理的配慮の扱いなどについて、整理が必要な部分がある。	○教職員は、課が示すマニュアル等を活用しながら、意義や記載の仕方を理解して個別の教育支援計画を作成している。	○他分掌と連携したり、校内で検討を重ねたりしながら、記載の仕方や合理的配慮の扱いなどについて整理する。 ○今後導入される県統一の様式も視野に入れながら検討を進める。	○教育支援計画の記載の仕方や合理的配慮の扱いについて、校内で検討を進め整理されつつあり、他分掌との連携も進めている。 ○県統一の様式については運用が延期されているようなので、現在の様式を大きく変えずに改善を行う。	B	○合理的配慮については引き続き整理をし、手続きなどについて提案していく。 ○教育支援計画作成の意義が教職員に伝わるような提案ができるよう準備する。
情報			○昨年度の校内情報研修、情報発信、相談対応などの取り組みから、教職員のICT機器の操作、活用するための知識能力は、さらに向上してきた。教育活動や校務で積極的に活かしているとする雰囲気が出てきた。ただ、教育活動に関する機器の操作やアプリ等についての情報発信や、ICTを有効に活用するための環境（機器の管理・情報共有・	○教育活動、校務においてICT機器を十分に有効活用するための環境整備（機器の管理・情報共有・業務改善のためのシステムの整備等）、情報発信、提案が行われ、ICT機器が有効活用され	○環境整備 ・必要な時にいつでもスムーズに有効活用ができるような情報機器やデータの管理と整備。 ・情報やICT端末等を扱う際の明確なルールづくりを行う。 ・ICT支援員と教職員を結び付けたり、ねらいを持った活用に努めたりすることで、ICTをより有効に活用できるようにする。 ○教職員へ学びの個別最適化を実現するためのアプリや機器操作等に関する情報の発信をす	○スムーズにデータを取り出せるようなフォルダ階層構造の再構築を準備している。使いやすい機器の整理整頓、保管場所の一覧表の掲示などを行っている。 ○業務効率化のためのデータベースの運用を始めた。 ○1人1台端末についてなど、必要なルールの整備や確認を随時行っている。 ○ICT支援員に、単一学級生徒の教科学習に関し、1年間継続的にアドバイスしたり、iPad		○現在取り組んでいることを引き続き着実に進めていく。 ○幼児児童生徒の個別最適化された学びを実現するための情報発信については、ニーズを集約したり、相談対応を丁寧に行っていききたい。その中で、効果的な事例等を全体に発信する。

専門性を発揮した教育活動の展開	報教育課	1. ICT機器の有効活用の推進	業務改善のためのシステム）の面でまだ整備が必要な部分がある。	ている。	る。 ○授業や校務におけるOneドライブ、Googleドライブ（クラウドサービス）の活用を促進するための取り組みを行う。	の管理や必要なマニュアルの作成等をしたりしてもらう等、活用の幅が昨年度より広がっている。 ○幼児児童生徒の個別最適化された学びを実現するための情報発信が十分にできなかった。 ○アプリや機器操作等に関する情報、Googleドライブ（クラウドサービス）の活用などについて、掲示板での発信、研修、書籍の紹介などを行った。	B	
	自立活動部	○教職員が、自立活動に関する知識を日々の実践で活かせるよう研修後や通信のフォローアップの充実	○研修や自立活動通信では、自立活動部員が周知する必要があると思う内容を扱ってきた。 年度末に集約したアンケートの結果、教職員はその他にも知りたい学びたいと思っている内容があるということが分かった。 ○研修等で取り扱った内容は「伝えた」ということにとどまり、日々どのように実践に活かされてれているか、活かそうとしているか、どうしたら活かせるのかなどの事後調査が不十分であった。	○教職員は、今年度の自立活動部が企画する研修や自立活動通信から得た知識を、日々の実践に活かしている。	○研修や通信の発行に先立ち、アンケートを実施するなどして教職員が知りたいと思っている内容を事前に調査する。 ○研修後や通信の発行後、アンケート等を実施して、内容に関連する質問があれば当事者に対して自立活動部員が回答をしたり、授業へ参加したりして研修や通信等の情報が実用的に活かされるための手助けをする。 ○優れた実践や工夫をしている教職員の知識技能を広めるため、自主研究会や自立活動通信で紹介するように運用方法を見直す。	○昨年度末の評価展望職員会アンケートを基に年間の大まかな計画を立た。また前期の自立活動部主催の研修ごとにアンケートを実施し「知りたい内容」「取り扱ってほしい内容」を把握するように努めた。8月21日の自立活動研修では、その結果に基づいた内容の講座を複数開設し、教職員自身の興味関心に基づいて講座を選択できるようにした。 ○校内の教職員の実践を広める工夫として、自立活動通信に「授業紹介」「教材活用」の様式を定め、それに沿って記事の依頼をし、編集している。 ○日ごろの悩み事や困り事に関しては、自立活動部が授業に参加することでその場で回答できることがあった。その半面、研修に関する質問については、特定の子どもの指導に関する個別のケースであることが多いが、無記名のアンケートであるため、その質問に対する返答ができにくいことがあった。	B	○アンケートを継続し、教職員が知りたいと思う内容の把握につとめ、要望の多い内容、時期に合致する内容等優先順位をつけて研修や通信に反映する。また、自立活動部員が調べたり研修したりして校内研修等の情報発信に備えることに加え、各分野において専門性の高い校内の教職員や外部の専門家を活用して要望に応えるようにする。 ○個別の質問や相談のケースに関して、研修後アンケートを記名式にすると解決できる問題もある反面、記入内容が記入者名とともに他職員から閲覧可能になることに対して躊躇する可能性も踏まえ、データ入力が無記名式アンケートと紙面の記名式アンケートを併用する。
社会参画活動等とおした共生社会実現へ向けた取組の...	人権教育・生徒指導部	社会参画の視点を持った、人権感覚の涵養と、問題行動等の未然防止の推進	○人権教育の教職員研修テーマが偏りがちであるため、ここ数年扱っていないテーマを扱い視野を広げ、人権尊重の精神が社会参画の大前提であることの理解を深める必要がある。 ○児童生徒の問題行動は少ないが、自らが社会を構成する一人であるという自覚に乏しいように感じられる。	○教職員が、社会参画に人権尊重の精神が不可欠であることを理解している。 ○児童生徒が、学校の中で自分の意見や思いを表明できている。	○近年の社会情勢の変化を踏まえたテーマで教職員研修を実施する。また、人権教育全体計画を教職員に説明し、人権教育の枠組みを理解することで、教育実践につなげる。 ○児童生徒会と連携するなどして、児童生徒の思いを汲み取った校内のルール作りや、社会参画の場面を設定する。	○年度初めのオリエンテーションで人権教育全体計画と年間指導計画作成について職員に説明し周知した。しかし、期限までに年間指導計画の前期評価が記載されていない学級が多かった。 ○夏季休業中に「鳥取県人権教育基本方針第3次改訂」をテーマに講師を招き職員研修を行った。事後アンケートでは「自分の日々の言動の中に無意識の偏見や刷り込み知識はないか」という自己の意識を振り返る感想が多くあげられた。 ○秋の全国交通安全運動の期間に合わせ、児生会と連携して「あいさつ運動」を実施し、生徒によるあいさつ・交通安全の呼びかけを行った。 ○前期の学校生活アンケートを実施し、児童生徒の思いを汲み取り生徒指導に活かした。また、今年度は小学部も加えて三学部で実施した。 ○昨年度に児生会と協力して作成した使用ルールに基づいて自動販売機の使用を開始し、学習に活用されている。	B	○職員研修での意識の気付きが今後の実践につながるよう、11月公開の人権教育参観日を大きな機会として捉え、年間指導計画に基づいた指導内容で実践できるように働きかける。 ○後期の学校生活アンケートを実施し、児童生徒の思いを汲み取り指導につなげる。 ○出身地校交流（小学部・中学部）と4校学校間交流を実施し、児童・生徒の社会交流の場面を設ける。 ○児生会と連携するなどして、校則等の見直しを実施する。
	戦略課	○共生社会を音識した各行	○感染予防のため、外部との交流はオンラインや入場人数制限で対応する等、制限があった。現在、感染予防レベルは緩和傾向にあるが、まだ終息に至っていない中、障がい理解の啓発活動について、新たなシステムを構築する必要がある。	○各行事や交流後に、保護者または交流相手が「交流を通して障がいに対する理解が深まった」「教育活動でどんな力をつけたいかが伝わった」等、肯定的	○本校の教育活動や障がい理解を軸に啓発できるよう「なぜ交流するか」「何を発信することに意義があるか」を教職員集団に事前に説明し、意識を高め臨めるようにする。 ○障がいに対する理解が深まるような企画提案に努める。目標の達成度が客観的に把握できるようなアンケート項目を作成する。	○6月のスポレクや8月の地域ふれあい交流では、保護者や交流先の各公民館より「教育活動でどんな力をつけたいかが伝わった」「障がい理解が深まった」等について8割以上の肯定的回答が寄せられた。また、目的意識を高め地域ふれあい交流に臨んでいただけるよう、事前に教職員対象にミニ研修をおこなった。交流後のアンケートでは「かかわる楽しさを感じられる		○10月の皆生・ブライト・フェスティバルやわくわく体験、芸術鑑賞教室等の行事や交流活動において「感染予防対策の徹底」に留意しながら教育活動や障がい理解に向けての啓発を引き続き行う。 ○双方向の交流が促進できるよう、交流相手からいただいた幼児児童生徒へのメッセージを掲示するなどして、教職員集団の障がい理解の啓

推進	事業部	心構えに口頭 事や交流等の 取組の推進		回答や感想をもつ。 ○教職員集団が「ど のような教育活動が 発信できたか」「ど のように障がい理解 を求めたか」につい て肯定的な回答をも つ。		支援や指導をおこなった」「障がい理解の啓発 を図ろうとした」についてそれぞれ８割以上の 肯定的回答が寄せられた。 ○地域ふれあい交流や、わくわく体験「フラダ ンスを楽しもう」では、障がい理解や共生社会 を意識した内容を設定した。また多目的ホール に交流の様子を掲示し啓発に努めた。	B	発意識が高まるようにする。
	総務部	業務の効率化 と改善の促進	○昨年度、８割の教職員が業務削減 に意識して自分にできることに一つ 以上取り組むことができたと答え、 年度始めに比べ月３０時間を超える 者が７月以降は、月平均１人など時 間外業務の縮減に努めた。 ○業務の偏りを把握し、平準化のた めに学部や個人に返して対応できた が、分掌の業務内容の見直し等改善 ができなかったことがある。	○教職員が業務（個 人、グループ等）の 効率化・工夫や改善 に主体的に取り組 み、自分にできるこ とを一つ以上行っ ている。	○教職員の業務の役割や分担を明確にする。必 要に応じて随時課題に対応し、業務（個人・グ ループ等）の効率化や内容の見直しを図る。 ○衛生委員会での各部からの業務・環境面等の 改善に関わる意見をもとに、各部での検討を含 めながら業務の効率化や改善に協働して取り組 む。	○各学部・分掌等で、年度始めに業務の役割 分担を確認し、状況に応じて担当間で連携をし ながら業務を進めている。新型コロナの状況を 踏まえ、学校行事や校外学習等を行う場合に は、継続するものや見直すものを確認しながら 進めている。 ○衛生委員会で実施した職員の業務改善アン ケートでは、８割以上の職員が業務の効率化や 改善に自分にできることを一つ以上取り組んで いると回答した。アンケートでの取組内容の推 進と併せ、他の職員の取組も共有しながら、よ り業務の効率化・改善を進めている。	B	○各学部・分掌等で業務の役割や分担を再度確 認し、新型コロナの状況への対応も含めて、継 続するものや見直すものをより明確に しながら業務の精選等を図る。 ○職員アンケートでの取組内容の共有を図り、 衛生委員会で個人に関わるもの以外に、学部・分 掌・管理職等関わるものについて整理し、各部 等と連携し業務の効率化・改善を進める。
	その他	事務部 教育環境及び 施設・設備の 適切な管理	○施設・設備の老朽化による修繕の 必要性または安心安全な教育環境の 整備及び特色ある教育活動の支援の ためにも中長期的な計画が必要であ る。	○幼児・児童・生徒 にとってよりよい環 境づくり、生徒を中 心にした教育環境の 充実を図る。 ○本来あるべき姿に 近づけられるよう、 幼児・児童・生徒を 中心に活かし、効果 的な予算執行を行 う。 ○学校全体の動き （方向性）を見なが ら業務に取り組む。 ○安全・安心な教育 環境であるよう心が ける。	○予算状況について複数で執行管理し、随時教 職員へ情報提供し、計画的な予算執行に努め る。 ○予算執行については、必要性を精査し、早期 に事業効果が発揮されるよう計画的な執行に努 める。 ○施設修繕については、教育委員会で策定され た長寿命化計画に併せて、学校内で課題を整理 し、優先順位をつけて予算要求をしていく。 ○５類に移行後も本校では、新型コロナウイルス 感染症対策予算は必要であり、別枠予算を含 め学校運営費予算から効率的に執行していく。	○予算配分・執行状況について教職員へ情報提 供をしきれていない。 ○管理棟、教室棟に続き、特別教室棟の屋上防 水改修を施工中。令和６年度予算で特別教室棟 外壁改修（塗装）、体育館エアコン更新、サー バー移設等を予算要求したところ。 ○急遽の施設修繕について、適宜臨時要望し、 追加で予算配分され今後施工予定。（音楽室、 ケアルーム照明器具改修他） ○通学バスリース事業で新車両を令和５年４月 １日納車で契約していたが、メーカーのエンジ ン認証不正問題により納車時期が遅れる見込み であるが、他メーカーの車両での年度内納車に ついて調整中。	B	○10月末時点での配分・執行状況を確認し、決 算見込みをたて、教職員へ情報提供していく。 ○予算執行については、必要性を精査し、早期 に事業効果が発揮されるよう計画的な執行に努 める。 ○施設修繕については、教育委員会で策定され た長寿命化計画に併せて、学校内で課題を整理 し、優先順位をつけて予算要求をしていく。

評価基準　A:十分達成〔100～80%〕　B:概ね達成〔80～60%程度〕　C:変化の兆し〔60～40%程度〕　D:まだ不十分〔40～30%程度〕　E:目標・方策の見直し〔30%以下〕